

【巻頭特集】

一丸となって舞台を作り上げる伊勢崎市立第四中学校演劇部

演じることが成長の糧に

伊勢崎市内にある12の中学校・中等教育学校のうち、部活動の演劇部があるのは第四中学校だけです。夏冬に行われる県の演劇祭や、演劇フェスティバルへの初参加など、精力的に活動を行う様子取材しました。

学内外で活動する市内中学で唯一の演劇部

中学生時代、勉強よりも部活動に熱心だったという人も少なくないことでしょう。市内の中学校の部活動として唯一、演劇部を持つのが伊勢崎市立第四中学校です。

顧問の狩野美由紀先生によると「25人の部員が所属し、学外での活動として県内8つの中学校が参加する夏と冬の演劇祭、定期公演会、学内では新入生歓迎のスプリングコンサートと飛翔祭があります」とのこと。1年間に5、6本の公演を行う中、今年も新たに演劇フェスティバルへの参加を決めました。

演劇フェスティバルは参加者を一般公募で募り、7月から8月

にかけていくつもの劇が上演されるイベントです。社会人劇団や大学の演劇部などの参加が多く、中学生の参加は今回が初めて。部長の佐藤琉妃さん、副部長の岡野咲希さんは、大人に交じって公演を行うことについて「嬉しい」と口を揃えます。「県などの決まった大会や学校行事ではなく、一般公演に自主的に参加するのは初めてです」「公演が2日間というのも初めて。お客さんは来てくれるかな」と新しいことに挑戦する期待をまっすぐな言葉にしてくれました。

取材当日は、8月に行われる演劇フェスティバルと、その直前にある夏の演劇祭の練習の真っ最中。2つの劇の練習が並行して進められる中、部員たちは一丸となり「夏の演劇祭でゴールデンアロ

長していく中学生時代、自主的に考え、チームでひとつのものを作り上げること、演技を通して自己を表現すること、他者の心を推し量ることなど、部活動を通して目に見えない多くのことを学んでいる様子うかがえました。

部内に代々伝わる言葉は「謙虚な心 下剋上」。オーディションで配役を競うときには、学年が下でも狙っていく、ほかの人から指摘されたことは謙虚な心で聞くという姿勢を表しているそうです。下剋上は「授業で習った言葉です」という屈託のない笑顔が印象的でした。

定するそうです。

佐藤さんは入部した当初、キャストを希望しましたが照明の担当になりました。「その時キャストだけでなく、全員がいなければ劇はできないことに気付きました。次からは毎回キャストに選ばれたけれど、誰ひとり欠けてはいけないと身にしみています。学年の壁ができる劇に反映されてしまうので、チームワークも大切。ポテイタツチャアイコンタクトを取らないと劇はよくなりません」

チームワークについては岡野さんも同意見。「仲間がいて、絆の深さがないと劇はできません。例えばとても仲がいい友達と大喧嘩するシーンを演じるのは楽しいです。絶対に起こり得ないことや日常で味わえないことを体験できるのが演劇の好きなところ

です」

多感であり心身共に大きく成



部長 佐藤琉妃さん(左)、副部長 岡野咲希さん(右)



演劇に大切なのは仲間。相手役のせりふと動きに集中する

たい」と意欲を燃やしています。

部活動を通して育まれる自主性や他者との関係性

台本は3年生を中心に、生徒たちが選びます。「夏休み」も「七つ森」も、埼玉県の中学校教諭であり演劇部顧問でもある齊藤俊雄先生の作品。中学生演劇で人気の高い作品を多く発表しており、第四中学の演劇部員にも作品の

「去年の夏に『夏休み』という台本で取りましたが、冬は逃しました。7月23日に行われる夏の演劇祭では『七つ森』を演じて奪還し

1賞を取り返す」と明確な目標を掲げています。

ゴールデンアロー賞は演劇祭に参加する8校が互いに投票しあう、競う仲間から選ばれる賞。う喜びがあるのだそうです。

「去年の夏に『夏休み』という台本で取りましたが、冬は逃しました。7月23日に行われる夏の演劇祭では『七つ森』を演じて奪還し



1「シュレーディンガーの猫」の練習風景。上演時間は約55分。ずっと集中しながら稽古を行う。2演技の練習に入る前に、柔軟体操、発声練習、ダンスなどを一通り行う。体力をつけるためにランニングをすることも。3学年や男女問わず仲がいいという演劇部。ひとつの劇を作り上げるためにチームワークは不可欠。42015年の学園祭「飛翔祭」の舞台の様子。台本は齊藤俊雄先生の「happy birthday」



「自分たちの演技を見てもらいたい」という言葉を送ったところ、「笑顔のある良い演目になるといいですね」という言葉を送りました。見ている人が笑顔になれることが大事です。自分たちの演技を見てもらいたい」という言葉を送ったところ、「笑顔のある良い演目になるといいですね」という言葉を送りました。見ている人が笑顔になれることが大事です。



演劇部顧問 狩野美由紀先生

ファンが多くいます。その魅力を知ると、等身大の中学生の姿を描きながら、「シリアスなだけでなく笑いがあった面白い」「人に伝えたいメッセージがあった劇が終わったあとに考えさせられる」「小さな伏線がたくさんあって最後にどんでん返しがある」と教えてくれました。

「七つ森」にはコメディの要素があり、「笑って記憶に残るといいですね。授業でも笑ったところはよく覚えていきますから、良い劇だと思ってもらいたいです。シリアスなだけでなく、笑ってもらって感動も残したい」と岡野さん。

「自分たちの演技を見てもらいたい」という言葉を送ったところ、「笑顔のある良い演目になるといいですね」という言葉を送りました。見ている人が笑顔になれることが大事です。自分たちの演技を見てもらいたい」という言葉を送ったところ、「笑顔のある良い演目になるといいですね」という言葉を送りました。見ている人が笑顔になれることが大事です。

第19回 演劇フェスティバル
「シュレーディンガーの猫」
伊勢崎市立第四中学校演劇部
8/6(土)、7(日) (一般観覧が可)

いずれも13:30開演、入場無料
会場 伊勢崎市総合文化センター (TEL.0270-76-2222)

東日本大震災の被害者支援により避難生活を強いられた高校生が、絆を育みながら成長の糧と友情を築いていく、実際に震災により避難した生徒が「自分の思いを伝えたい」と、福井県立大沼高校演劇部と共同で脚本を制作した感動作。
【今回は一般公演のため社会福祉の目的があるもの、見てもらえる劇材を選びました】(狩野先生)